

# 調布市防災教育の日

令和3年4月24日

## 1校時 防災啓発講話

オンライン【多摩川の河川整備と避難につなげる防災情報】国土交通省



過去に多摩川で起こった氾濫の事例、ハザードマップやマイタイムラインを用いた災害に対する日頃の備えに関する講義を受けました。講義の中で、スライドや動画が使われていて最後まで興味を持って話を聞くことができました。



## 2校時 道徳 【生命尊重】



東日本大震災発生時、地元の写真スタジオで撮影アシスタント兼デザイナーとして働いていたあいしまさん。震災直後から遺影写真の依頼を受け、笑顔になれない子ども達とも出会い、その出会いは10年経っても忘れることができないでいます。震災を経験した子どもたちは何歳になったのか笑って過ごしているのか、今でも考えるとといいます。「ずっとしまっていた」体験を漫画で描いたあいしまさんの記憶や感情が、10年の節目に今一度振り返る機会を与えてくれます。



東日本大震災の時に、大切な家族と思いの詰まった家を流されてしまった大槌町在住中学2年生黒沢菜緒佳さんの書いた作文「バイバイ」を読みました。あたり前にある今の幸せや命がどれだけ大切で、決して失われてはならないということを考える機会となりました。



## 3校時 地震発生 → 避難訓練

防災備品  
倉庫確認  
体育館  
SECOM 確認  
AED 設置場  
所確認など



### 3・3・3・3 のルール

地震だ！ **3秒**

・落ち着け・身を隠せ

揺れが収まった **3分**

・家族は大丈夫か・火元の確認

・ラジオをつける

みんなが無事か 避難所へ着くまで **3時間**

・余震に注意・隣近所で助け合う・壁や塀に近寄るな

無理しない 救援を待つ **3日間**

・家族の安否を確認・水、食糧は備蓄で・災害情報の入手





### AED(自動体外式除細動器)とは

心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態(心室細動)になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器。

### なぜ必要なのか・・・

日本では、救急車の到着まで平均約 8.6 分。除細動までの時間が 1 分経過するごとに、生存率は約 7～10% 低下する。心臓が血液を送らなくなると、3～4 分以上で脳の回復が困難になると言われている。救急車の到着を待っているだけではなく、傷病者の近くにいる私たち一般市民が一刻も早く AED を使用して電気ショックをできるだけ早く行うことが重要になる。

「気仙沼市立階上中学校卒業式」は、震災翌日に行われる予定でしたが、10 日後の 3 月 22 日に行われました。

「天を恨まず」は、卒業生代表の **梶原裕太さん** が語った答辞の中の言葉です。わずか 15 歳前後の少年が歯を食いしばりながら最後まで立派に読み上げた答辞の言葉は、まだどう受け止めたら良いのか分からなかった大人にも、力強いメッセージとなって語りかけました。



### \*卒業式答辞・卒業生代表の言葉\* 「天を恨まず」

本日は、未曾有の大震災の傷も癒えない最中、わたくしたちの為に、卒業式を挙げていただきありがとうございます。

ちょうど、10 日前の 3 月 12 日、春を思わせる暖かな日でした。わたくしたちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を、57 名揃って巣立つ筈でした。

前日の 11 日。

一足早く渡された、思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、10 数時間後の卒業式に、思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名づけられる、天変地異が起こるとも知らずに・・・

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていたわたくしたちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、わたくしたちから大切なものを、容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、おごすぎるものでした。辛くて、悔しくてたまりません。時計の針は、14 時 46 を指したままです。でも、時は確実に流れています。

生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには、大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、**天を恨まず**、運命に耐え、助け合って生きていく事が、これからの、わたくしたちの使命です。

わたくしたちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごして下さい。

先生方、親身の御指導、ありがとうございました。先生方が、いかにわたくしたちを思って下さっていたか、今になってよく分かります。

地域の皆さん、これまで様々な御支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしく願い致します。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これからわたくしたちが歩いていく姿を見守っていて下さい。必ず、よき社会人になります。

わたくしは、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成 23 年 3 月 22 日

第 64 回卒業生代表 梶原 裕太